

親字	音訓	甲骨文・金文・古文 (殷・西周・春秋・戦国)	説文解字 篆文	隸書 (秦・前漢・後漢)	草書	行書	楷書 (南北朝から初唐)	正字体 楷書	日本上代 から 平安初期
印	イン しるし 教4常①								
危	キ あぶない あやうい あやぶむ 教6常①								
危									
却	キヤク かえって しりぞく しりぞける 常①								
卻	②								
即	ソク すなわち たとえ つく もし 常①								
卽	人③								
卵	ラン たまご 教6常①								

【印】行書の偏は横線2本を書き「レ」を書くのが一般的な書き順。したがって偏の縦線は下に突き抜けない。一画目は左から右に書く。平安以降は各なし点をつけることが多い。
【却】「卻」の異体字で五経文字や康熙字典では俗字とされているがその出現は早く、漢代にまでさかのぼる。文部省活字

も俗字を採用している。旁を「卩」と誤ったものも多い。
【即】漢代の隸省／隸変である。康熙字典には「即今作卽」とある。開成石経でもこの字体が使われている。文部省活字もこの字体を採用している。漱石は正字と通字の折衷のような字体を書いている。

平安中期 から 室町	江戸版本	康熙字典 1716年 部首・画数	弘道軒 四号	夏目漱石 坊っちゃん 明治39年	通字体活字 明治41～ 大正3年	漢字 整理案 大正8年	文部省 活字 昭和10年	当用 漢字表 昭和21年	太宰治 人間失格 昭和23年	当用漢字 字体表 昭和24年	教育漢字 平成4年	参考
												印 現代中国
												危 現代中国
												却 現代中国
												即 現代中国
												卵 現代中国

【卵】複数の字典に九経字様の例が載っているが、官板の九経字様には見えない。西安の石碑にはあるのだろうか。

親字	音訓	甲骨文・金文・古文 (殷・西周・春秋・戦国)	説文解字 篆文	隸書 (秦・前漢・後漢)	草書	行書	楷書 (南北朝から初唐)	正字体 楷書	日本上代 から 平安初期
卸	シャ おろし おろす 常①		卸				卸	卸	卸
							卸	卸	
卿	キョウ ケイ 人①	𠂔	𠂔	𠂔	𠂔	𠂔	𠂔	𠂔	𠂔
卿		𠂔	𠂔	𠂔	𠂔	𠂔	𠂔	𠂔	𠂔
卿		𠂔	𠂔	𠂔	𠂔	𠂔	𠂔	𠂔	𠂔
厩	ヤク わざわい 常①		厩				厩	厩	厩
厚	コウ あつい 教5常①	𠂔	𠂔	𠂔	𠂔	𠂔	𠂔	𠂔	𠂔
		𠂔	𠂔	𠂔	𠂔	𠂔	𠂔	𠂔	𠂔
		𠂔	𠂔	𠂔	𠂔	𠂔	𠂔	𠂔	𠂔
厩	リン 常①						厩	厩	厩
廐	テン みせ やしき		廐				廐	廐	廐
							廐	廐	廐

【卸】江戸干禄では、偏を「垂」としたものを「正」とし、偏の下部を「山」とするものを「通」としているが、五経文字では、「卸」を正字として修正している。漱石は江戸干禄に掲載の2種の字体を書いている。漱石は干禄字書を持っていたのかもしれない。

【卿】説文篆文に従えば「卿」になるはずだが、そのような字体は五経文字の他にみつかからない。漢代から「卿」を書きしており、干禄字書も日本の文部省活字もそれに倣っている。康熙字典は「卿」を採用しているが、「卿」の字種では「卿」を採用しており、一貫していない。官板五経文字の〈石経〉と

平安中期 から 室町	江戸版本	康熙字典 1716年 部首・画数	弘道軒 四号	夏目漱石 坊っちゃん 明治39年	通字体活字 明治41～ 大正3年	漢字 整理案 大正8年	文部省 活字 昭和10年	当用 漢字表 昭和21年	太宰治 人間失格 昭和23年	当用漢字 字体表 昭和24年	教育漢字 平成4年	参考
	卸	卸	卸	卸			卸	卸		卸		卸 卸
	卸			卸								卸 卸
	卿	卿	卿	卿			卿	卿				卿
	卿			卿								卿
				卿								卿
				厩			厩	厩				厩
				厩								厩
				厚			厚	厚				厚
				厚								厚
				厚								厚
				厩			厩	厩				厩
				厩								厩
				廐			廐	廐				廐
				廐								廐

されている字体には「厩」の中に点があるが、これは誤りではないだろうか。『五體字類』(3版)では「厩」の中の点を省いている。
【厩】五経文字の親字ではなく説明にこの字が使われている。
【厩】「厩」「廐」「厩」が同字種の異体字なのか、別字なのか。

古代には「厩」にあたる字体は見えない。王羲之が宋搨祖石絳帖で草書の「廐」を書いているが、字体は「厩」のようなので、「廐」の草書から「厩」ができたとも考えることもできる。北魏では「廐」の字種に「土+厩」を書いたり、「厩」を書いたりしている。官板干禄字書では「厩」と「廐」を同字

親字	音訓	甲骨文・金文・古文 (殷・西周・春秋・戦国)	説文解字 篆文	隸書 (秦・前漢・後漢)	草書	行書	楷書 (南北朝から初唐)	正字体 楷書	日本上代 から 平安初期
釐	リ おさめる								家録萬象名義
原	ゲン はら たずねる もと								王勃詩序
廐	キウウ うまや								豊指指録
厨	ズ チュウ くりや								五経文字

種、「釐」は別字としている。康熙字典は「厘」の項に「俗作釐省非」とある。漢字要覧では「物ノ数量ヲ記スル時ニ限リテ、別體ヲ用ケルモ妨ナシ」とし「厘」は「釐」の異体字の特別な用法とする。明治の漢字もは「厘」を「釐」の許容とする。陸軍幼年学校用事便覧は「實ハ別字」とする。

【原】古代の文字を見ると旁に角はついていない。角をつけるのは字体の差ではなく、説文の様式の差なのではないだろうか。干禄字書では角ありを〈正〉、角なしを〈俗〉とする。【廐】この字は元々「厂」の字らしい。説文篆文を根拠とすれば五経文字の字体が正字ということになるだろう。文部省活

平安中期 から 室町	江戸版本	康熙字典 1716年 部首・画数	弘道軒 四号	夏目漱石 坊っちゃん 明治39年	通字体活字 明治41~ 大正3年	漢字 整理案 大正8年	文部省 活字 昭和10年	当用 漢字表 昭和21年	太宰治 人間失格 昭和23年	当用漢字 字体表 昭和24年	教育漢字 平成4年	参考
原	原	原	原					原	原	原	原	原
廐	廐	廐	廐					廐	廐			廐
厨	厨	厨	厨					厨	厨			厨

字は干禄字書でいう〈俗〉を採用している。

親字	音訓	甲骨文・金文・古文 (殷・西周・春秋・戦国)		説文解字 篆文	隸書 (秦・前漢・後漢)	草書	行書	楷書 (南北朝から初唐)	正字体 楷書	日本上代 から 平安初期
参	サン まいる まじわる みつ 教4常①									王勃詩序
参	②									聖武天皇雜集
又	ユウ また 常①									王勃詩序
又	サ シャ また 人①									弘徽動成弘経
及	キユウ および および および 常①									王勃詩序
及										風信帖

【又】金文には「右」という意味で「又」を用いている例があり、古璽には「有」という意味で「又」を用いている例があるという。

平安中期 から 室町	江戸版本	康熙字典 1716年 部首・画数	弘道軒 四号	夏目漱石 坊っちゃん 明治39年	通字体活字 明治41~ 大正3年	漢字 整理案 大正8年	文部省 活字 昭和10年	当用 漢字表 昭和21年	太宰治 人間失格 昭和23年	当用漢字 字体表 昭和24年	教育漢字 平成4年	参考
												参 現代中国